



無所属 保守派
柏原市議会議員

山口ゆか

ムダのない、かしこく活力のある柏原市を作りたい、めざすのはスマートシティ柏原
かしわらりょく
柏原力UP↑

今年に入り、ロシアのウクライナ侵攻が続いています。いかなる場合においても、力づくで相手を制圧することはあってはなりません。密室で行われている虐待やDV、はじめなども同じです。

そして、この度の参議院選挙の応援演説の最中に、安倍元総理大臣の銃撃テロ事件が起きました。なぜ理不尽にも命を奪われなければならぬのでしょうか。途方もなく空虚感でいっぱいです。

民主主義の日本において、言論ではなく力による現状変更は決して許されず、二度とこのような悔しい事件を起こさない日本をつくらなくていけません。

柏原の山や川、この自然財産を再生し、活用していくことが、柏原市の大切な戦略だと私は考えます。そのためにも様々な課題やクリアしないといけない問題がありますので、いくつかの項目をピックアップして6月議会で質問しました。

盛土の点検について

昨年7月に発生した熱海市の土石流災害を受け、国から都道府県に「盛土による災害防止に向けた総点検」の依頼があり、柏原では6ヶ所の是正箇所があると大阪府より示されました。点検について質問したところ、【柏原市土砂等による土地の埋立等の規制に関する条例】に基づき、スムーズに当事者と話ができ、是正に至っているとのことでした。

国は法改正をし、危険な盛土等を規制していきます。基本方針が示されたら大阪府と連携を図っていくことです。違法な残土処分など森林は狙われやすいので、パトロールなど、引き続き警戒を要望しました。

森林保全

令和2年から森林の維持、保全、整備の担い手の確保や育成に取り組んでいます。市の面積3分の2を占める森林の保全活動の継続のために、以下について質問しました。

専門的スキルをもつ人材育成については、事業の進捗に合わせて考慮していくということ、組織的な取組（所有者、行政、企業、市民ボランティアなど）についてはフォーラムで市民や企業に参加いただき、森林保全検討会で連携方法や運営組織のあり方を検討していくと、答弁されました。山の管理にはマンパワーが必要ですので体制を強化していただきたいと要望しました。



高尾山の美しいけやき林



6月26日
草刈り作業に
参加

市役所前から親水公園まで河川敷を拡充して活用しよう

河川敷のさらなる活用をしていくために、大和川河川事務所の協力のもと、これまで何度かイベントが開催されています。直近の5月のイベントは、コロナ禍での久しぶりの開催ともあって、多くの方が来場され活気があふれていました。河川敷での出し物や、大和川での川遊びなど様々な催し物があり、特にファミリー層が多く、日本遺産のお土産コーナーにもぎわっていました。

その反面、駐車場がすぐ満車になってしまった。駐車場を確保するために、途中で終わっている河川敷の整備を拡充してイベント時には駐車場として、平日は市民が憩える公園として開放できない



議会&活動報告書
Vol.17
4年夏号

@yamaguchi_yuka_
@yamaguchi_yuka_
f 山口ゆか
f 柏原市議会議員山口ゆか

yamaguchiyuka.com
info@yamaguchiyuka.com
072-926-5077
YouTube 「柏原市議会」

所感

太陽光発電施設について

詳しくは
YouTube



再生可能エネルギーに一定の制限をかける自治体の条例は全国で約200件あり、数年で約7倍に増えました。柏原市には太陽光発電施設に対する条例はありません。

国では、脱炭素（カーボンニュートラル）を目指して取り組んでおり、柏原市でも太陽光発電を推進していく方向ならば、設置に関する条例が必要ではないのか、という観点から質問しました。

条例が必要な理由
家や工場の屋根と違い、森林に設置する場合、大量の木を伐採することで植物の光合成の機会を失うことになり、パネルがあることで太陽光が届かず、土壌が弱くなっている場合、土砂災害などの災害リスクが高くなる。

再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）が終了する2035年以降、大量のパネルの廃棄の問題があり、最悪の場合、そのまま放置されたり、不法投棄など懸念される。

大阪府が作成した条例ひな形の活用を

大阪府が府内の市町村に向けて、条例のひな型を示しています。このひな形は条項ごとに太陽光発電を推進するものと環境に配慮するものと複数案あり、選択できるようになっています。

市が太陽光発電などの再生可能エネルギーを推進していくからこそ、守るべき範囲の輪郭をはっきりさせておく条例が必要です。

しかし、答弁では、国の【事業計画策定ガイドライン】と大阪府の【太陽光発電施設の地域との共生を推進する体制→大阪モデル】があり、国・府・市と「情報共有」「連携協力」を行ながら、適正設置に取り組んでいくとの程度にとどまっています。

柏原市では盛土については条例があるので、市が介在して話し合いでできています。太陽光発電施設においても条例がないと、何か起きた時に市が動けず、市民と市民の財産を守れないという事態を危惧します。これらの理由から、今後も条例制定を要望していきます。

詳しくは
YouTube

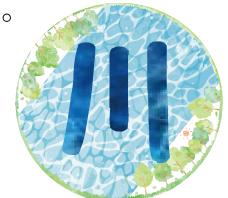


か質問すると、現時点では、まずは市役所前の河川敷公園での河川空間オープン化を目指しているが、今後の状況によっては検討する必要が出てくる可能性はある、という答弁でした。

さらにトイレや水道施設の必要性について質問すると、河川管理者等と協議をしながら検討し、見定めていくという答弁でした。

また、国のかわまちづくり制度を活用した整備について、検討する可能性はあるという答弁でした。

柏原市の自然財産である山と川を再生し、活用することが大切な戦略です。整備が拡充されることで、ポテンシャルの高い河川敷空間になると思うので、前向きに検討してほしいと要望しました。



公共施設の再編整備計画

詳しくは
YouTube

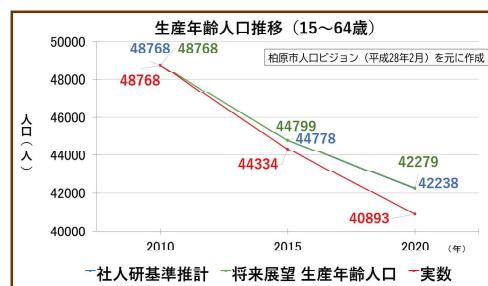
3月議会



平成29年に「公共施設等総合管理計画」を策定し、40年間で公共施設を21%削減すると方針を決めています。令和5年度までの2年をかけて、老朽化や維持・補修に多額の費用が必要となる施設（例→市民文化センターなど）を中心に検討対象として、複合化が可能な施設を選定し、再編整備をしていくための計画を作ります。ただし、公共施設の51.2%を占める学校施設は対象外です。

私は学校を含めた検討が必要であると考え市長に質問したところ、持続可能な学校教育施設のあり方について、多方面から検討する取組を進めていくとの答弁でした。

グラフのように予測値よりも人口減少となっているので、しっかりと計画を立ててほしいと要望しました。



小中学校の適正規模・適正配置

3月議会

詳しくは
YouTube



基本方針は5年毎に見直すことになっており、今年の秋に示される予定です。年少人口（0歳～14歳）は市の将来展望数からは大きく離れており、年々減少傾向にあります。

今、生徒が減って部活動の選択範囲が狭くなっていること、部活動を維持していくことも深刻な問題です。今後、小中一貫教育はどう取り組んでいくのか質問したところ、府内の先行事例（施設一体型小中一貫教育や義務教育学校など）を研究し、活かしていくとの答弁でした。

学校の再編のための決断は重いもので市にとって棚上げしてしまった議論でしょうけれども、次世代のためにも早い段階で方向性を示してほしいと要望しました。

市政報告

柏原市の情報をお伝えします



近鉄法善寺駅、堅下駅の工事進捗

堅下駅の奈良行きの地上改札はすでに運行しており、大阪行きホームの地上改札が7月26日より使用できるようになります。（地下道の工事期間中は通行不可となりますので注意）



法善寺駅は奈良行きの地上改札が完成しており、大阪行きは9月末の完成を目指し、スロープを含めた工事が進められています。

商品券事業11月～開始予定



地域応援商品券（国の地方臨時交付金を活用）

1人3,000円分の商品券が10月に送付

使用期限は11/1～12/31（予定）

額面は前回より低くなりますが、緊急的な措置として少しでも家計の負担軽減になって、市内の事業者支援となることを願います。

電子図書館10月から



10月頃から電子図書館の貸出サービス開始

電子書籍12000冊、貸出期間が過ぎると自動で返却

文字の拡大や音声読み上げ機能のある書籍もあるそうです。また、小中学校でも配布されたタブレットと連携した取組も進められることが多いです。



市議会議員3期目
無所属（保守系）

堅下小学校、堅下北中学校卒業
ひとり親で子育てをしてきました。
住まいは上市3丁目、
事務所は法善寺にあります。
市議会では会派に属さず。



詳しくは
YouTube

JR 柏原駅東側の周辺地区

詳しくは
YouTube

3月議会



この地区は近鉄と連結し、人通りが多く土地の評価も高く、駅前の利便性から新築マンションが建つなど居住ニーズは高まっています。高齢者においては、独居の方が増え、交通弱者も多く、公的支援を必要とされています。

都市部に機能を集中させる「コンパクトシティ」について市長に質問したところ、「社会変化に対応した持続可能な都市経営を図るため、コンパクトなまちを形成し、利便性と快適性の高い住みよいまちを目指していきたい」と答弁されました。

年齢性別問わず、誰もが住みよい、ユニバーサルなデザインを基盤とし、持続可能なまちづくりを要望しました。

詳しくは
YouTube

3月議会



今後の公共交通のあり方（きらめき号）

市内循環バスきらめき号は平成10年に1台から始まり、現在は5台で便数やルートも拡張されていますが、様々な要望に応じてことで事業が拡大し、経費がかさんでできています。事業そのものを見直す時期にきていたのではないかと質問しました。

国のデジタルに関する交付金を活用して、今年8月頃から各バスにGPSやAIカメラによる画像認識システムを導入し（AIカメラの設置は令和4年度のみ）、これまでより詳細な乗降データが得られ、有意義な解析が可能となることです。

今後、取得したデータから問題点や改善点を抽出し、将来的なあり方について検討していくことですので、利用の多い主要な箇所をピックアップして重点的に運行をし、その他の地区や運行空白地については、ニーズに応じた乗合バスやデマンド型の小型バス（予約制）を活用するなど、メリハリをつけた公共交通を目指してほしいと要望しました。

マイナンバーカードでポイント



マイナンバーカードの申込み期限は2022年9月末まで

申請の方法は広報7月号に掲載されています。よくわからない方はご説明しますので、お気軽にご相談ください。

上下水道事業が抱える課題と対応策

【課題】収入減少（カネ）、施設等の老朽化（モノ）、技術者不足（ヒト）

水道事業の対応策→広域化

国は補助金をつけて広域化を推進し、大阪府は「府域一水道」を目指しています。

柏原市は大阪広域水道企業団と統合する広域化の取組の検討を始めました。今年1月、協議を開始するため企業団と覚書を締結し、今年度末に「統合素案」を作成します。

現在の水道事業会計は健全ですが、料金改定をしないままだといずれ赤字に転じると推測されています。柏原市民にとって最善の策となるよう、しっかりと見定めていきます。

下水道事業の対応策→包括的民間委託

令和5年からの導入に向けて「包括的民間委託」を取組を進めているところです。民間業者のノウハウを活用し、緊急対応の迅速化、維持管理業務の効率化を図り、持続的かつ効率的に下水道事業を実施していくことを目的としています。サービスが低下しないよう最善を尽くしていただきたいです。

後援会員を募集しています ウェブサイト・電話・FAX・メールで随时受付中!
一緒に政策を考える「柏原力UPの会」の会員を募集しています

山口由華後援会

Webサイト
<http://yamaguchiyuka.com>

Eメール
info@yamaguchiyuka.com

発行・編集 山口ゆか事務所 〒582-0007 柏原市上市3丁目10-30 TEL 072-921-7430 討議資料

LINE